



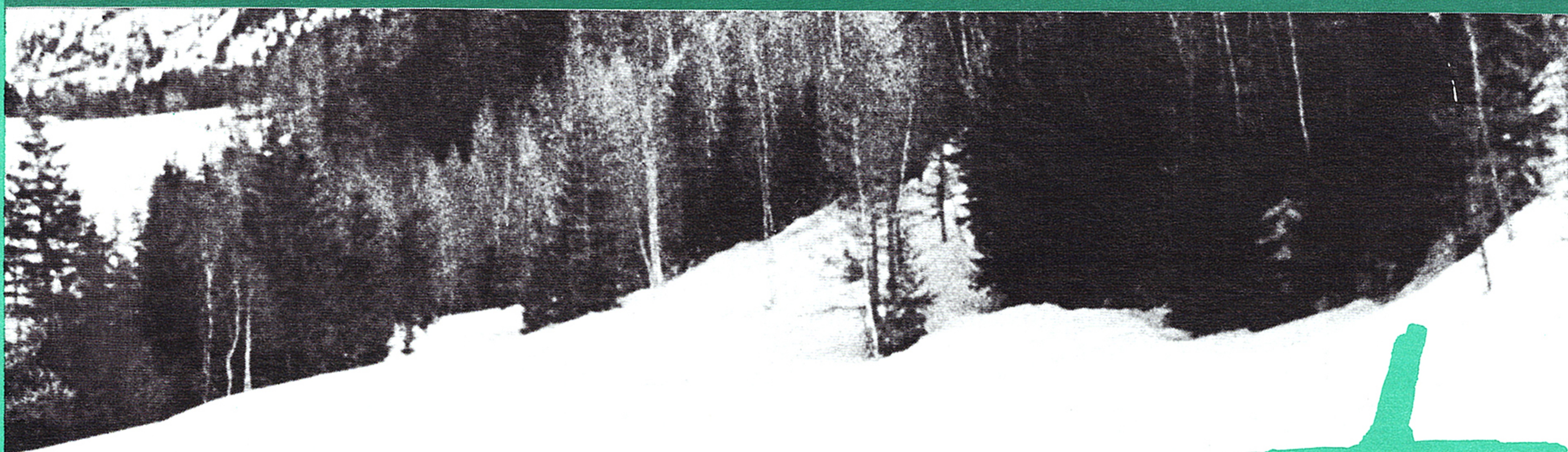
傑作を世界からはこぶ
バウ・シリーズNO.3
提携エキブ・ド・シネマ

フランス映画社配給



un film de
JEAN RENOIR
LA
GRANDE
ILLUSION

avec
JEAN GABIN
PIERRE FRESNAY DITA PARLO
ERICH VON STOROHEIM
MARCEL DALIO



国境をこえる愛と自由に平和の理想を刻む
巨匠ルノワールの 映画史上最高の金字塔
問題の完全版 日本初公開!

監督ジャン・ルノワール

ジャン・ギャバン
デタ・パレロ
ピエール・フレネー
エリッヒ・フォン・シュトロハイム
マルセル・ダリオ

脚本・台詞シャルル・スパーク/ジャン・ルノワール
撮影クリスチャン・マトラ/クロード・ルノワール
音楽ジョセフ・コスマ

R. A. C. 製作、Compagnie Jean Renoir 提供
フランス映画

Design : Masakatsu Ogasawara

大いなる幻影 **【完全版】**

エキブ・ド・シネマ/ロードショウ!

●地下鉄(都営6号線)神保町・下車1分/国電(中央線)
水道橋またはお茶の水駅・下車7分●神保町交差点

10月**23**日(土)より

岩波ホール (262)
5252

特別鑑賞券800円 (岩波ホール・チケットガイド(ビル1階)の
ほか都内各プレイガイドで絶賛発売中!)
(当日は一般・学生とも1000円)

■入替え制・自由定員制■〈毎火曜の夜は休場〉

●上映時間●	平日(月→土)	1:00	3:30	6:30
	日曜・祝日	12:00	2:30	5:00

●日本初公開の完全版

「戦争なんか一度と起こしてほしくないな」「いや、それは君の幻影さ」というマレシャルとローゼンタールの会話でしめくくる、ジャン・ルノワール監督の不朽の傑作「大いなる幻影」が完成したのは1937年。映画が第二次世界大戦の勃発を鋭く予言したとのエピソードはあまりにも有名だが、作品そのものが、大戦前夜の緊張した外交関係と各国の軍事検閲で、さまざまな国で重要なシーンをカットされる数奇の運命をたどったことはあまり知られていない。

日本への最初の輸入は完

成と同じ1937年（昭和12年）と早かったが、この時は完全に上映禁止。軍国主義にそぐわない所やナチス・ドイツに都合の悪い所をカットしたり、字幕の日本語訳を改変して懸命に公開にこぎつけようとしたが、ドイツからの公式通知で、せつかくの「ナチス版」すら禁じられたのだという。

ルノワールのスケールの大きいヒューマニズムがとらえた人間の自由な生きざまと戦争に反対する奥深い叫びは、カットしても改変しても消しきれなかったのだろう。

ナチス版では、連合軍の捕虜が全員で、《ラ・マルセイーズ》を大合唱するシーン、ロシア兵がアレクサンドラ皇后からの慰問品を怒って燃すシーン、ドイツの農婦エルザがマレシャルたちをかくまい、戦死した父や夫のことを語るシーン、エルザとマレシャルの愛のシーンなど15シーンが無残にカットされた。



「大いなる幻影」の日本公開は戦後の1949年にもちこされたが、公開されたプリントは、なんと戦前に公開されそなたナチス版だった。（このことに抗議して多くの批評家がキネマ旬報のベストテン投票で意識的に棄権したが、それでも第二位に選ばれている。）今回のプリントは、1958年にルノワールが4カ月をかけて復元した完全版で、問題のカット・シーンをふくむ映画史上の巨大な傑作の全貌が、ほんらいの姿で、はじめて日本に登場する。

●物語の発端

1916年から1917年頃、第一次世界大戦を背景に展開する。

仏軍参謀本部大尉ド・ボアルデュー伯爵と飛行隊のマレシャル中尉は、ドイツ領を偵察飛行中に独軍飛行中隊隊長フォン・ラウフェンシュタインに撃墜され、ハルバツハ捕虜収容所に送られた。

仏軍、英軍、ロシア軍の各国の捕虜のお国がらもさまざまな、マレシャルたちを迎えた7号室の仏軍捕虜士官も、さまざまな前身でにぎやかだ。寄席芸人、測量技師、田舎教師、それにユダヤ財閥一族のローゼンタール——4人は毎夜、脱走用の穴を掘り続けている。ベルダン戦線の要衝ドゥオーモンをめぐって独仏の攻防は日に日に激しい。収容所内の慰安演芸会の夜、仏軍ドゥオーモン奪還の報をマレシャルが伝えた。国籍の相違をこえた《ラ・マルセイーズ》の大合唱が捕虜の間に湧きあがる……。

●ルノワールの巨大な全貌

脱走の伏線を敷くハルバツハ収容所、脱走を決行するウインテルスボーン城砦、スイス国境近くの農家から国境に至るまで、物語は脱走を軸に展開するが、ルノワールが、自分自身の第一次大戦中の体験と、戦友であり命の恩人である飛行士パンスールの体験談をもとに、脚本家シャルル・スパークと組んで書きあげたシナリオは、構想の大きさといい、国籍の相違よりも階級のちがいを、登場人物の個性の細部と人間くささにふみこんで描いた内容の豊かさといい、比類のない名シナリオとなった。

ルノワールの、サイレント映画時代の前衛主義的な傾向の名作群、30年代の社会主義的な全般の風潮のなかで誰よりも鋭く、しかも大らかに人間を見すえた数々の傑作群（「水から救われたブーデュ」、「ゲームの規則」等々）は、ネオレアリズム、ヌーベル・バグの源流といわれる。

日本でこれまで公開されたルノワール作品は長篇34作品中の9作品。巨大な山脈の一角を見たにすぎない。「黄金の馬車」という傑作中の傑作——但し現在世界的に公開不可能——がもしも公開されるようなことにでもなれば、父オーギュスト・ルノワールが印象派の代表的な画家という評価に對して、ジャン・ルノワールは、映画という20世紀の芸術の代表的な存在という評価が何の不思議もなく定着することだろう。

「大いなる幻影」完全版の公開は、ナチス版の不完全さをぬぐうだけでなく、ジャン・ルノワールの巨大な全貌を知る第一歩なのである。



フランス映画社配給

大いなる幻影

LA GRANDE ILLUSION

〔スタッフ〕

監督……………ジャン・ルノワール
脚本・脚色・台詞……………
……………シャルル・スパーク
……………ジャン・ルノワール
撮影監督……………クリスチャン・マトラ
撮影……………クロード・ルノワール
音楽……………ジョセフ・コスマ
助監督……………ジャック・ベッケル
完全版復元(1958年)……………
……………ジャン・ルノワール
……………ルネー・リヒティグ

〔キャスト〕

マレシャル中尉……………ジャン・ギャバン
エルザ……………ディタ・パルロ
ド・ボアルデュー大尉……………ピエール・フレネー
フォン・ラウフェンシュタイン大尉……………エリッヒ・フォン・シュトロハイム
ローゼンタール中尉……………マルセル・ダリオ
寄席芸人カルチェ……………ジュリアン・カレット
測量技師……………ガストン・モドー
田舎教師……………ジャン・ダステ
ピンダロスの学者……………リュシアン・イトキン
フランス映画 [完全版 1時間55分 3172m]